

## 登米市立小中学校等再編構想の基本的な考え方

### ○背景

多くの自治体が課題としているように、登米市においても少子化による児童生徒数の減少が課題となっています。この減少傾向は今後も続き、小中学校の学校規模が小規模化することが予想されます。

登米市教育委員会では、本市における小中学校の望ましい学級編制と学校規模の実現を図るため、文部科学省が策定した「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」を参酌しながら、「登米市立小中学校再編基本方針」をまとめました。

その中で、登米市では目指す学校像として「児童生徒が、多様な考えに触れ、切磋琢磨することで社会の形成者としての基本的資質を伸ばすことのできる学校」を掲げ、小学校・中学校とも、原則として各学年2クラス以上の学級編成となるような学校規模に再編していくこととしました。

### ○考え方

#### (1) 学校の適正規模・適正配置

登米市立小中学校再編基本方針に基づき、学校の適正規模・適正配置（※）及び学校施設老朽化への対応等、望ましい教育環境の充実に図ります。

#### ※適正規模・適正配置

クラス替えができる各学年2学級以上、小学校は再編後も小規模校の状態が見込まれる場合でも旧町域に1校は配置、通学時間はスクールバスを活用し、概ね1時間以内を基本的な考え方とします。

中学校は当面町域毎の配置とし、再編が必要となる場合は、町域を越えた再編を検討します。

#### (2) 校舎などの有効活用

現有の校舎や施設を活用することで、早期の統合が見込まれることから、必要に応じた施設改修等を行った上で有効活用を図ります。改修等に要する財源は、国の補助や学校教育施設等整備事業債など、有利な財源を活用しながら進めます。

### ○東和地域の状況

#### (1) 小学校の概要



学 校 名	米谷小学校
建築年（経過年数）	昭和48年（45年）
構 造／階 層	鉄筋コンクリート造／3階建
床面積／敷地面積	3,622㎡／21,741㎡
構 成 施 設	校舎、体育館、プールほか
大規模改修年	平成11年（校舎）



学 校 名	錦織小学校
建築年（経過年数）	平成3年（27年）
構 造／階 層	木造・鉄筋コンクリート造／2階建
床面積／敷地面積	2,624㎡／13,916㎡
構 成 施 設	校舎、体育館、プールほか
大規模改修年	—



学 校 名	米川小学校
建築年（経過年数）	昭和46年（47年）
構 造／階 層	鉄筋コンクリート造／3階建
床面積／敷地面積	3,146㎡／16,930㎡
構 成 施 設	校舎、体育館、プール
大規模改修年	平成11年（校舎）

(2) 児童数の推移と統合新校の規模

	学年	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R10	R20
米谷小学校	1年生	15	10	14	12	11	15	12		
	2年生	12	17	10	14	12	11	15		
	3年生	25	14	17	10	14	12	11		
	4年生	10	26	14	17	10	14	12		
	5年生	19	10	26	14	17	10	14		
	6年生	21	20	10	26	14	17	10		
	合計	102	97	91	93	78	79	74		
錦織小学校	1年生	12	8	7	11	11	10	5		
	2年生	8	9	8	7	11	11	10		
	3年生	14	9	9	8	7	11	11		
	4年生	12	13	9	9	8	7	11		
	5年生	9	12	13	9	9	8	7		
	6年生	15	7	12	13	9	9	8		
	合計	70	58	58	57	55	56	52		
米川小学校	1年生	12	13	12	5	5	7	4		
	2年生	8	11	13	12	5	5	7		
	3年生	11	8	11	13	12	5	5		
	4年生	12	12	8	11	13	12	5		
	5年生	15	12	12	8	11	13	12		
	6年生	2	15	12	12	8	11	13		
	合計	60	71	68	61	54	53	46		
東和合計	1年生	39	31	33	28	27	32	21		
	2年生	28	37	31	33	28	27	32		
	3年生	50	31	37	31	33	28	27		
	4年生	34	51	31	37	31	33	28		
	5年生	43	34	51	31	37	31	33		
	6年生	38	42	34	51	31	37	31		
	合計	232	226	217	211	187	188	172		

※学級編成基準

小学校1、2年生・・・1クラス35人

小学校3～6年生・・・1クラス40人

複式学級・・・2学年合わせて16人未満